

2012年2月2日  
マツダ株式会社

## 2012年3月期 第3四半期 決算発表 主な質疑応答

### (実績・見通しについて)

**Q: 今期の通期見通しが赤字となった要因を教えてください。**

**A:** 歴史的円高、震災影響、欧州危機、タイの洪水影響などにより、第3四半期累計期間の営業損失は543億円となりました。また、繰延税金資産の取崩し影響もあり、当期純損失は1,128億円となりました。営業損失543億円のうち、震災影響は220億円、洪水影響は42億円で、計262億円が外部要因による一過性の利益損失となります。これらの状況等を受け、通期見通しを下方修正しました。

**Q: 新型CX-5のグローバル導入など、SKYACTIV商品による利益貢献について教えてください。**

**A:** 第4四半期より、SKYACTIV技術を全面的に搭載した新型CX-5をグローバルに導入します。円高環境下でも利益を創出できるCX-5の効果を主要因に、今第3四半期をボトムとして、第4四半期には全ての利益レベルでの黒字達成を目指します。なお、新型CX-5は、今月、国内で販売を開始し、その後順次、グローバルに導入していきます。

### (構造改革プラン)

**Q: 今回、構造改革プランを発表された背景と施策を教えてください。**

**A:** まず、マツダの持つ、構造的な課題として

- ① 国内生産に依存しており、為替への対応能力が弱い
- ② 北米唯一の生産拠点であるAAIで生産しているMazda6が赤字であること
- ③ 北米・欧州など先進国が主体の販売構造
- ④ ASEANなど、新興国進出の遅れを認識しています。

昨年6月に「中長期の施策の枠組み」のアップデートを公表させていただきましたが、その後、歴史的円高の定着、タイの洪水など事業環境が大幅に変化しています。今回、こういった外部環境の変化に対応し、構造改革を行うため、中長期の枠組みの強化を実施する決定をいたしました。構造改革の施策は、

- ① SKYACTIVによるビジネス革新
- ② モノ造り革新による更なるコスト改善の加速
- ③ 新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築
- ④ グローバルアライアンスの推進 です。

これらの施策を進め、2013年3月期には全ての利益レベルで黒字化を達成し、それ以降の黒字定着を目指していきます。